

令和3年度 匠瑛市まち・ひと・しごと創生市民会議(書面開催)  
提出意見等について

別紙

NO.	ページ	行・箇所	指摘・変更	意見等	考え方・対応
1	全般	-	持続可能なまちづくりについて	<p>持続不可能なまち、匠瑛市にならないために。持続可能なまちを創ることは喫緊の課題であり、そのカギは市役所にある。</p> <p>今までのようなやり方では持続可能なまちを創ることは困難だと思ふ。やりっぱなし、作りっぱなし、中途半端が多すぎると思ふ。通り一遍の対応ではもう通用しなくなっている。</p> <p>経済的発展は、まちの発展の土台となるものである。地元経済の活性化なくして、持続可能なまちづくりはできない。市役所の若手職員は、思い切って市民の中に入って行き、様々なチャレンジをしてほしい。匠瑛市の未来はあなた方にかかっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少に歯止めをかけ、地域の活性化を図りつつ、持続可能なまちを実現するためには、地域の特性を活かした取組と、住民の生活に密着した「総活躍できるまちづくり」が重要です。</li> <li>・様々な地域課題の解決に向けては市民や関係団体等の多様な主体との連携・協働を推進し、もって地域の課題を踏まえた、意欲と創意工夫によるまちづくりを展開します。</li> </ul>
2	全般	-	施策の見直し等について	<p>コロナ禍により、社会情勢や匠瑛市を取り巻く環境が大きく変わってしまったので、感染拡大が落ち着いた時期に、見直しや修正が必要な施策もあるのではと思ふ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における社会情勢の変化等を注視しつつ、必要に応じて、総合戦略の計画期間中での内容の見直しも検討してまいります。</li> </ul>
3	全般	-	交通アクセスについて	<p>地域は交通アクセスにより劇的に変わる。地域が便利になり、交流・関係人口が増える。まち・ひと・しごと創生市民会議の委員にも、銚子連絡道路の促進に係わってもらおうと思ふ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市では、立地優位性を活かした企業誘致や、若者の移住・定住の促進等を通じた地域活性化に取り組んでいるところです。</li> <li>・銚子連絡道路については、供用開始により、首都圏方面と東総地区が繋がることで、ヒト・モノの動きが一層活発になり、本市のみならず地域全体の活性化が期待できることから、本市は多様な関係団体・関係機関等と連携して促進に取り組んでいます。</li> <li>・こうした取組を進めるに当たっては、まち・ひと・しごと創生市民会議において頂いた御意見を反映できるよう努めてまいります。</li> </ul>

NO.	ページ	行・箇所	指 摘 ・ 変 更	意 見 等	考 え 方 ・ 対 応
4	全般	-	新たな本市のPR方法について	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、自治体も活動が非常に困難な状況であると思う。そうした中、首都圏における生活満足度が向上していないという報道に接した。コロナ禍で人口密集は避けたいが、しかし生活利便性や楽しみ、健康生活を確保したいという、人間の欲望は失われていないと考える。一説によれば、ある地域では人口流出が続いており、前述の人間性を物語るものと考えている。</p> <p>本市が有している生活利便性、公共施設、医療機関、交通手段、健康生活に必要な自然環境や公民館等の市民の拠り所、首都圏への近さ等々を考慮すると、かなりの評価ができる立地条件であると考えている。こうした点を踏まえて、新たな本市のPR方法を探求できないものだろうか。ピンチをチャンスと捉え、治に居て乱を忘れず、その逆もまた真であるという気概で取り組んでもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少や少子高齢化等を背景として、まちの活力を維持・向上するためには、定住人口や関係人口、交流人口の創出が必要です。</li> <li>そのためには、本市ならではの魅力や特徴、優位性を様々なプロモーションを駆使して、効果的・効率的に市内外に発信し、本市の認知度や好感度を高めながら、交流人口や関係人口、定住人口の創出へとつなげていきたいと考えております。</li> </ul>
5	全般	-	会議のオンライン化について	<p>資料だけでは内容が読み取れず、考察が不十分、断片的である。会議における質疑応答などがあれば、内容を理解納得できるのかもしれないが、ZOOM等によるオンライン会議はできないのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料は、わかりやすく充実した内容記載に努めます。</li> <li>会議のオンライン化については、多人数が参加可能なZOOMアカウントの取得や、PC等のデバイスの整備など、実施環境の整備を現在行っております。</li> <li>環境整備後には、会議の開催方法の選択肢として、オンラインでの会議開催を検討していきます。</li> </ul>
6	全般	-	市の取組等の周知について	<p>活動があまり市民や外部に周知されていないように思える。発信力を高めることを意識してはどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内外に対する情報発信の強化と、取組に対する理解の醸成に努めてまいります。</li> </ul>
7	全般	-	生活様式等の変化を踏まえたまちづくりについて	<p>今後の各事業や取組を行うにあたっては、新型コロナウイルスの影響により生活様式が大きく変化していることを踏まえ、従来型の内容を必要に応じて変えていく必要がある。例えば、テレワークによる勤務が今後も続いていくと思われ、基本目標2の「定住・移住人口の確保」については、5G・6Gの通信環境を見据えたまちづくりを行い、テレワーク中心の世帯でも快適に暮らせる地域を目指すことなどである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のデジタル化の状況やコロナ禍における社会情勢の変化等を踏まえて、適宜内容の見直しを検討してまいります。</li> </ul>

NO.	ページ	行・箇所	指 摘 ・ 変 更	意 見 等	考 え 方 ・ 対 応
8	1ページ以降	基本目標1	産業の振興・育成について	<p>基本目標1の、産業や雇用の項目で進捗度が低い。新型コロナ禍の大変な時期ではあるが、終息後のダッシュに向けて、デジタルの強化に合わせた産業構造の改革や環境の取組などの新機軸を取り入れて、市内の農家や企業と連携して具体的に進めていただきたい。</p> <p>また、こうした産業育成の先進的な取組をアピールし、匠瑤市の企業版ふるさと納税がさらに注目されるよう、全庁的な連携で取り組んでいただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業構造のデジタルシフトを意識しつつ、デジタル技術を活用した生産性向上、商品・サービスの高付加価値化を推進し、魅力ある産業づくりや経営基盤強化を進めます。</li> <li>庁内での連携を図り、企業版ふるさと納税の推進を図ります。</li> </ul>
9	1ページ以降	基本目標1 基本目標2	高校生のキャリア教育について	<p>総合戦略において、基本目標1(2)②や基本目標2②に、高校生に関連した項目がある。新型コロナウイルス感染症の影響で関連事業が中止となり、残念に思っている。</p> <p>本校には匠瑤市在住の生徒が、全日制・定時制合わせて187名(25.8%:4月現在)在籍している。また、海匠・香取・山武地域の市町村在住の生徒は698名(96.1%)にのぼる。</p> <p>こうした生徒が地元に住んで仕事ができるように、キャリア教育の一環として～仕事を知らう～という取組を行っている。取組は医療・看護編、教職編、成田空港編、起業編の4つの分野に分かれており、関係する大学への見学や、外部から講師を招いての講演、成田空港見学等を行っており、生徒の職業への意識を高め、将来は地元に住んで働くきっかけとなればと思っている。こうした取組は市の総合戦略と合致するところもあるため、少しでもお役に立てればと思っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の魅力ある仕事について知ることは、若者の地元定着や将来のUターンがにもつながることから、重要な取組であると考えております。</li> <li>本市においても、御意見の中にありましたキャリア教育への参画をはじめ、高校生と地元企業との意見交換会や、企業説明会等の高校生に地元産業の理解を深めてもらうための取組を行ってまいりました。</li> <li>今後も教育機関や地元企業等と連携し、職業意識の形成を図りながら、地元で暮らすことの魅力や地元企業の魅力等が若者に取組を進めてまいりますので、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。</li> </ul>
10	11ページ	KPI	No.39「出会いの場参加者数」について	<p>進行管理シートの進捗度で「×」がついていたNo.39-出会いの場参加者数について、実績の説明に「対面で交流するスタイルのため、イベント実施が困難で代替取組も難しい」との記述がある。本件についてもNO.7で前述のとおり、生活様式が変わっている状況下でできることを検討することが必要と考える。</p> <p>例えば、対面することを条件にせず、ZOOMやGOOGLE_MEETなどのアプリを使ってオンラインイベントを実施してみることも一案ではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ZOOMについては、多人数が参加可能なアカウントの取得や、PC等のデバイスの整備など、実施環境の整備を現在行っております。</li> <li>環境整備後には、他地域の事例を参考としつつ、オンラインイベントの実施について検討していきます。</li> </ul>